

大学生と連携しSNSで発信プロジェクト——舞鶴市

終戦時、多くの日本人の帰国者を迎えた「引き揚げのまち」として知られる京都府舞鶴市。引き揚げやシベリア抑留などの史実と、引揚者を温かく迎えたまちの歴史の継承活動を行う「舞鶴引揚記念館」では、来館者の増加を目的に開設したフェイスブックを活用し、首都圏の大学に通う学生と連携した発信プロジェクトに取り組んでいます。

「若者への継承活動」から「若者による若者への継承活動」へ

舞鶴引揚記念館は1988（昭和63）年に開館。館内には、シベリアの地で使用されたコートなどの防寒着、「引揚証明書」などの文書類、シベリア抑留中に紙の代わりに白樺の皮を使用し、故郷への思いを和歌にして書いたという「白樺日誌」、抑留者が日本の家族にあてて送った停虜用郵便葉書、収容所の様子を描写した記録画など、全国から寄贈されたさまざまな資料が展示されています。

記念館は、子どもたちの平和教育や社会人の研修の場としても利用されています。また、引き揚げの史実と平和の尊さを語り継いでいく上で、市民などによる語り部の存在も重要になっています。近年では、「若者への継承活動」から「若者による若者への継承活動」に力を入れています。

2015年には、所蔵する引き揚げ関連資料「舞鶴への生還1945-1956シベリア抑留等日本人の本国への引き揚げの記録」が、ユネスコ世界記憶遺産に登録されました。

コロナ禍で来館者が減少する中、コロナ収束後の来館者増加を目的に、同館では昨年7月にフェイスブックを開設。1年が経過した現在、全国から2500以上のフォロワーを集めるまでの規模になりました。

フェイスブックを活用した発信プロジェクトは、20代から30代の若者への啓発活動の一環として実施。首都圏の大学生が舞鶴引揚記念館について独自に学習し、情報収集を行うほか、記念館職員からの説明や記念館への訪問、関係者への取材などを通じて感じたことを記念館のフェイスブックに投稿します。

オンラインによるセッションを開催

目白大学（東京都新宿区）メディア学部有志学生と連携した「目白大学・舞鶴引揚記念館フェイスブック発信プロジェクト」では、オンラインによる最初のセッションを8月10日に開催しました。

セッションには6人の学生と、舞鶴引揚記念館・史実の継承係の松岡



●舞鶴市・舞鶴引揚記念館
<https://m-hikiage-museum.jp/>

恵美係長が参加。学生からは「シベリアでの生活が分かる資料はありますか？」「学生語り部の方がどういうきっかけで語り部になったのか聞いてみたい」「記念館ではどのようなイベントを行っていますか？」など、記念館の活動に関して積極的に質問が出されました。また、舞鶴市の特産品やグルメなどに関する質問も出され、舞鶴に行ったことがない学生たちの、舞鶴への興味も広がりました。

松岡係長は、「しっかりと事前準備をした上で、セッションに臨んでいただけたようで、さまざまな質問を投げ掛けていただき、有意義な時間になりました。このような機会を通して引き揚げに関心を持っていただくことはうれしいことです」と話し、プロジェクトへ期待を寄せました。



舞鶴引揚記念館フェイスブックページから
<https://www.facebook.com/maizuruhikiagekinenkan>

10月7日「舞鶴引き揚げの日」を伝える「広報まいづる」8月号



学生が率直な意見を投稿

この後、参加した学生は、それぞれの視点で感じた舞鶴引揚記念館に関する記事をフェイスブックに投稿。9月上旬現在、「目白大学の学生が見た」のタイトルで、数件の記事が投稿されています。

8月末に投稿された記事「シベリ

アで生きていた抑留者」では、3年の男子学生が白樺日誌や虜用郵便葉書などの展示資料について触れ、「苦しい中でも生き抜いた人々の物語を垣間見ることが出来る」と感想を述べました。一方で、「戦争が遺した悲惨な事柄や平和の意味を知ることが、現代に生きる私達はどこか面倒くさがってしまっている」とし、

この投稿記事などをきっかけに、「新しい視点で、知らない歴史について学ぶ人が増えていってくれたらいい」と綴っています。学習の一環や修学旅行先など、中高生にとっては訪問する機会が比較的多い記念館ですが、それ以上の大学生や20代の若い世代との接点が少ないことが課題でした。松岡係長は、

「今回の投稿やプロジェクトをきっかけに、学生たちの記事に共鳴する人が増えていくことで、若者から若者への継承活動が実践されていくことを期待したい」と語っています。舞鶴市では、舞鶴港へ引き揚げ第1船が入港した10月7日を「舞鶴引き揚げの日」として制定し、市民などへの広報活動に取り組んでいます。

外国人市民向けに多言語動画で情報発信——鈴鹿市

三重県鈴鹿市は、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、日本語が分かりづらい外国人にも情報が伝わるよう、外国人市民向けのYouTubeチャンネル「Amigo Suzuka」（アミーゴズカ）

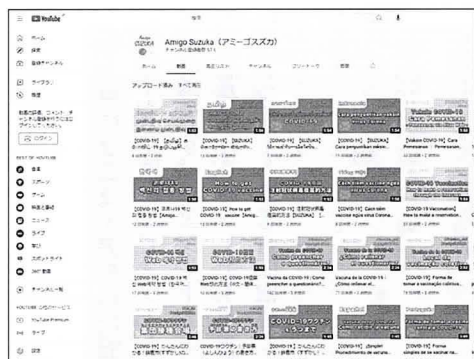
を開設。感染防止対策やワクチン接種の流れなど関連の情報を、多言語による動画で公開しています。「アミーゴズカ」で、これまで公開されているのは、ワクチンを打つまでに行う手順を紹介した「ワクチンを打つまで」「Web予約のとり方」「予約票の書き方」1集

団接種会場の流れ」など。鈴鹿市ではこれまで、外国人市民向けに、ウェブサイトやフェイスブックで、ポルトガル語とスペイン語、普通の日本語よりも簡単で外国人にも分かりやすい「やさしい日本語」で、それぞれ情報発信してきました。今回の動画では、この3言語

に加え、英語や中国語、ベトナム語やインドネシア語など7言語でも配信しています。動画はそれぞれ約2〜3分で、大きめの文字と簡潔な図を基本に、イラストや写真、映像なども活用し、ワクチン接種を受けるための流れを分かりやすく紹介しています。



● YouTube チャンネル「Amigo Suzuka (アミーゴズカ)」



10言語の動画で配信する「Amigo Suzuka」

Amigo SUZUKA
Suzuka Shiyokusho Official Page

Cara penyuntikan vaksin Virus Corona

Alur hingga penyuntikan vaksin

- 1 Terima kartu suntik vaksin
- 2 Pemesanan suntik vaksin
- 3 Pergi untuk suntik vaksin

Pemesanan lewat telepon
TEL 0120-280-489 (Gratis)
Bahasa Portugis, Bahasa Spanyol, Bahasa Inggris, Bahasa Jepang

Pemesanan lewat internet

Pemesanan lewat dokter langganan

インドネシア語

Amigo SUZUKA
Suzuka Shiyokusho Official Page

coronavirus の ワクチンを打つまで

Amigo SUZUKA

ワクチンを打つまでにすること

- 1 ワクチンの接種券が届く
- 2 ワクチンの予約をする (予約方法)
- 3 ワクチンを打ちに行く (無料です)

TEL 0120-280-489
※おかけ間違いありません

FAX 059-384-5670
※おかけ間違いありません

いつでも行っている
病院(かかりつけ医)で予約する。

やさしい日本語